銅・アルミ 市況見通し

4月

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

銅

2月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で12・9％減の5万5210㌧で14カ月連続のマイナス、3カ月連続で6万㌧を割った。

2月の銅電線出荷量は同4・6％減の4万9千㌧で、うち国内が同3・2％減、輸出が同60・5％減だった。

銅輸出は、電気銅が同38％増の5万6952㌧、銅スクラップが同1・2％減の2万4751㌧。

2月の銅輸入は、電気銅が同62・9％減の93㌧、銅スクラップが同31％増の1万342㌧だった。

銅スクラップ景況予想

3月の電気銅建値は、月初に128万円を付けたものの中旬に122万円となるなど下落傾向だった。スマートフォン需要の低迷で生産が減少、流通（一次問屋）における3月の在庫は品薄となった。需要面は自動車生産販売の回復から一定の需要は出るが、スマホ需要の回復が遅れているため需給は緩むと見ている。

4月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	8500～9500ドル	横ばい
電気銅建値	120～137万円	横ばい
為替（1ドル）	135～140円（1カ月間TTM）	変わらず

LME銅・為替予想

今月は「欧米の金融政策」「中国景気回復の動向」に左右される。

欧米の金融政策では、昨年から米・FRB（連邦準備理事会）や欧・ECB（欧州中央銀行）がインフレ抑制のための利上げを実施、その金利負担によりシリコンバレー銀行やシグネチャーバンクが破綻した。ただ、次期FOMC（連邦公開市場委員会）は5月のため口先介入しかできず、一喜一憂の展開になると見ている。

中国景気回復の動向では、ゼロコロナ解除後の景気回復が期待されていたが、スマホや自動車販売の低迷が明らか。このため急回復は望めないと予想する。

アルミ

2月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同6・5％減の13万9256㌧で11カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同7・1％減の8万7711㌧、押出類が同5・3％減の5万1545㌧だった。

2月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同0・5％減の5万7597㌧（3カ月連続のマイナス）。出荷は同1・8％増の5万9262㌧（前月比プラス）

輸出はアルミ新地金が同124・4％増の267㌧、アルミ二次合金が同30・3％減の885㌧、アルミスクラップが同15・8％増の2万9259㌧、アルミ缶が同12・1％減の5205㌧。

輸入はアルミ新地金が同28・8％減の7万1971㌧、アルミ二次合金が1・6％減の8万2184㌧、アルミスクラップが同42・5％減の260㌧、アルミ合金スクラップが同26・6％増の809㌧だった。

4月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ現物後場買い	2300～2500ドル（現物後場買い）	横ばい
スクラップ	マイナス10円（前月最終価格より）	横ばい

アルミスクラップ景況予想

2月に引き続き欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2300～2400ドルと前月から下落。流通（一次問屋）の在庫は、自動車生産・住宅着工ともに回復基調にあるものの4月の入荷は少ない見通し。

需要面はアフターコロナにおける中国景気の失速からの安い中国塊が入ってきており、緩むと見ている。